

香川県の水田土壌に関する研究(第 1 報)

主として沖積土の粒径組成と母材との関係について

真鍋武夫・大熊正寛・白井美和

香川県における沖積水田の表層土の粒径組成と母材との関係を調査して、次のような結果を得た。

1. 香川県の沖積水田土壌は粒径組成からみると、母材の影響を大きく受けており、次の 3 タイプに分類された。
2. 主として花崗岩類を母材とする土壌の粒径組成の平均値は粘土が 10~12%、シルトが 15~18%、砂が 70~75%であった。この種の土壌は主として高松市以東と三豊郡の北部に分布する。
3. 和泉層群を主要母材とする土壌の粒径組成の平均値は粘土が 15~17%、シルトが 22~25%、砂が 58~63%で花崗岩系土壌に比べて、粘土・シルトの比率が大であった。この種の土壌は主として仲多度郡北部、三豊郡南部に分布する。
4. 上記の(2)と(3)の土壌の中間的なもの、花崗岩類の風化物に洪積土、三豊層、安山岩類及び凝灰岩などの風化物が混入したものの粒径組成の平均値は粘土が 10~15%、シルトが 18~22%、砂が 65~70%であった。この種の土壌は香川郡、綾歌郡の中部に分布する。